



熊本(長崎)旅行

会員 佐竹 雅 (68期)

1 旅程

二回試験が終わった後、熊本と長崎に3泊4日で一人旅をした。大学院時代、浪人中、修習中は旅行に行く気になれず、本当に久しぶりの旅行だった。

熊本と長崎を選んだ理由は、好きな歴史朗読CDが天草四郎時貞の物語を扱っていたこと、船に乗ってみたかったこと等だ。調べてみると、熊本港から島原港にはフェリーで渡れる。島原から諫早までは島原鉄道、諫早から長崎まではJRで移動すれば、熊本から3時間程で長崎に着くらしい。

船に乗ることができ、島原鉄道では諫早湾を見ながら移動ができる。海が好きな自分としては、この上ない喜びである。ということで、1日目は熊本市街観光、2日目は天草列島、3・4日目は長崎への移動と長崎市街観光という旅程で進むことにした。

2 熊本市街

1日目。熊本は阿蘇にしか行ったことが無く、熊本城を見るのは初めてである。自分の出身地にも市街地に城があるので、バスの窓から城のような建物が見えてきても、感慨無く（ふーん）と構えていたら、次から次へと城のような建物が出てくる。びっくりして呆然としていたら、私が城と思った建物は櫓だったらしく、天守閣はもっと奥にあるらしい。興奮して、さっそく熊本城観光に向かうことにする。

ガイドブックに、熊本城のふもとにある「桜の馬場城彩苑 湧々座」で熊本城の歴史について学んでいくと、城を拝観する際理解が深まって楽しいと書いてあったので、それに従う。少し学んで、すぐに入城するつもりが、湧々座の展示に夢中になってしまって、すっかり暗くなってしまった。入城は3日目に延ばすことにする。



熊本城 大天守・小天守

3 天草にて

2日目。交通センターから天草本渡行きバスに乗る。ひとまず、上天草物産館さんばーでバスを降り、天草四郎メモリアルホールに向かう。

メモリアルホールの展示によると、乱のそもそもの原因は、島原半島と天草諸島の領民が過重な年貢負担に窮したことにあり、これにキリシタンへの迫害、飢饉等が重なったとのことである。そして、その過重な年貢負担の原因は、天草地方に新たに入城した領主が、同地方の石高を過大に算定したことにある。つまり、領民はおよそ達成できないノルマを課され、過酷な生活を強いられていたことになる。

過大な石高の算定が、時の領主の過失によるものか、あるいは、幕府に対しての体面を重んじたためであるのかは分かりかねたが、いずれにせよ、領主の見込みの甘さによることは確かである。島原の乱での一揆側の死者数は約3万7000人、幕府側の死傷者は約8000人である。見込みの甘い適当な仕事を発端として、これだけ多くの人々が犠牲になったことを考えると、悔しさと共に、背筋が凍る思いがした。これから仕事はきちんとしていこうと、自分に対して、かえすがえすも言い聞かせることになった。

少し学んで、すぐに天草本渡に渡るつもりが、メモリアルホールの展示等に夢中になってしまって、すっかり遅くなってしまった。天草列島の先まで行くのは諦め、メモリアルホール近くの温泉に浸かって、熊本市街に戻ることにした。

4 結語

熊本は見るべき所が多く、同様の長崎も含めると、とても3泊4日では足りなかった。両県、必ず再訪したい。